

| | | | |
|-----|-----------|-----|-------|
| 分科会 | 中学地理 | 郡市名 | 岡崎 |
| 提案者 | 岡崎市立竜海中学校 | | 神谷 耕一 |

研究主題 「学ぶ喜びをわかち合い、共生社会をめざした生き方を問う社会科の授業」

～ 愛知県 「全国一の工業生産と外国人労働者」 の実践を通して ～

1 研究のねらい

価値観の多様化や社会情勢の複雑化が進み、情報があふれかえっていくこれからの社会を生き抜く生徒たちにとって、「現状をどう判断し、いかに将来を創造するか」「自と他の違いを理解し、お互いを尊重しながらどのようによりよい共生社会を築くか」といった課題を考える力を養うことが非常に重要になる。そのためには、自主的に課題を追究し自らの考えをもつこと、多様な情報を取捨選択し、他の意見を認め自分の考えを深めながら、お互いを尊重する生き方を創造する姿勢をはぐくむことが必要である。そこで、研究テーマである「学ぶ喜び」「わかち合い」「共生社会をめざした生き方を問う授業」を以下のように捉え、本研究を進めた。

学ぶ喜び・・・直接的な体験をすることにより、新たな社会認識をもつとともに、強い関心をもって課題を追究しようという意欲をもてたときに、学ぶ喜びを感じることができる。

わかち合い・・・学習を通して同じテーマで考え、意見交換をする中で、お互いの考えを認め合い、新たな価値観を見出すことができたときに、わかち合いを感じることができる。

共生社会をめざした生き方を問う授業・・・自分の生活を改めて振り返る中で、自分の考えを深めながら、お互いを尊重する生き方を意識するきっかけとなる授業。本単元では、「外国人との共生」をテーマとした。それは文化の違いを理解し、お互いの考え方の違いを受け入れ認めた上で、ともに共生することができる社会であるにとらえた。

本研究では実践単元を「愛知の工業」とし、「増加する外国人労働者」の問題を核として単元を設定した。愛知県は、製造品出荷額については26年連続で全国1位であり、中でも輸送機械の生産では全国の35.7%という圧倒的なシェアを誇る。しかし、その製造業において近年少子高齢化などの影響により、人手不足が深刻な問題となっており、その問題解消のために外国人労働者が急激に増加してきている。特に日系ブラジル人については、現在日本全国にいる人数の約半数が東海地方に集中している。そして、外国人労働者の増加にともなって、文化の違いや言葉の壁などにより日本人との間での摩擦も起きはじめている。本単元では、生徒たちがこの問題とどう向き合い、そしてどのように外国人との共生社会をつくっていくべきなのかを考えるきっかけをつくっていききたい。

まず、日本一を誇る愛知県の工業生産が、急増する外国人労働者に支えられている現実を、工場の日本人社長から話していただく。生徒は外国人労働者の必要性を理解するとともに、急増していることに対して不安感を抱くであろう。ここで、外国人労働者の増加によってどのような状況が起きているのかを問いかけ、外国人労働者・雇用者・行政など様々な立場の人へのインタビューへとつなげたい。直接話を聞くことにより、生徒たちはさらに関心を高め、課題を追究していこう。その上で、それぞれの立場からの情報をもとに学級全体で意見交換する場をもうけたい。この中で生徒たちは自分の意見と他の意見のつながりを見出し、考えを再構築していこう。こうした学習を通して生徒たちがわかち合いを感じられるようになっていくと考える。次に、今後の日本人と外国人との共生のあり方について問いかけ、実態をもとにした提案を出させていく。最後に、この単元の学習をすすめる中で自分の考えがどう変化したのか、自分自身で見つめなおす場をもうけ、今後の外国人と日本人の共生のあり方をもう一度深く考えることによって、学習したことが今後の生き方につながるようにしていきたい。

2 研究の内容と方法

本研究では、このような考えをもとに、以下のような仮説を立てた。

(1) 研究の仮説

インタビューを中心として現場の声を実感できる調べ学習を行えば、強い課題意識をもって学習に取り組むことができるであろう。

多様な立場からの情報を交わし合う場を設けることにより、情報どうしのつながりをとらえることができ、自己の考えを再構築し、今後のよりよい社会のあり方を考えることにつながるであろう。

単元の終わりにこれまでの考え方の成長を振り返る場を設定すれば、自己の考えを再度見つめなおすことができ、今後の生き方をより深く考えることができるであろう。

(2) 仮説検証の手だて

外国人労働者の方や雇っている日本人の方などに直接話を聞く機会をもつることにより、課題に対する強い意欲をもたせる。

日系ブラジル人や日本人経営者、住民、行政など多様な立場からの調査をもとにして、問題点を明らかにし、その解決方法を考えるための話し合いの場を設定する。

話し合いをふまえ、外国人との理想的なかかわり方について考えさせるとともに、今までのワークシートを読み返させ、自分の考えの変化を見つめ直す振り返りの場を設定する。

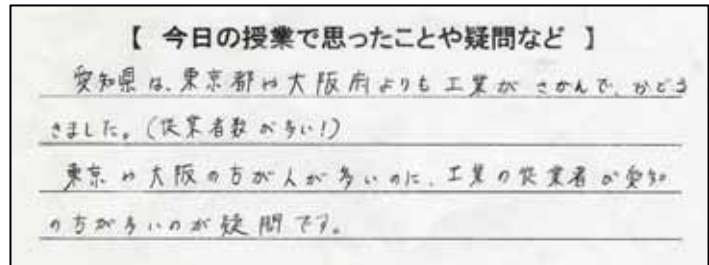
| 学習内容 | 生徒の活動 | 手だて・支援 |
|--|--|---|
| <p>・愛知県の1位調べ</p> <p>・工場の人を招いての聞き取り</p> | <p>どんな産業が愛知県で盛んなんだろう</p> <p>愛知県の産業で全国1位のものを調べよう</p> <p>キャベツ キウ 鉄鋼 窯業 繊維製品 プラスチック 一般機械 輸送機械</p> <p>愛知県は工業に全国1位のものが多いんだな</p> <p>愛知県の工業を支えているものはなんだろう？</p> <p>工場の人に話を聞いてみよう</p> <p>点の部品 一台の車に3万 めに多くの工場 部品をつくるた リ労働力が減少 少子化などによ 外国人労働者 人手不足を補う 労働者は日本一 愛知の外国人労働者 愛知の外国人労働者は急増中</p> | <p>・他県との違いを明確にするために、グラフどうしを比較して愛知県の産業について特徴をつかませる。</p> <p>・問題意識を強くもたせるために、外国人の必要性を理解させた上で、外国人の急増のグラフを見せる。</p> |
| <p>・外国人労働者についてのインタビュー</p> | <p>そんなに外国人労働者が増えて大丈夫なのかな？</p> <p>外国人労働者の実態について調べてみよう</p> <p>【日本人住民】 【日本人労働者】 【外国人労働者】 【会社】</p> <p>生活のルールを守つてくれない 外国人が住む地域はこわい雰囲気 楽しい つきあってみると 仕事がなくなくなる いので困る 日本語がわからない さん移れる 日本に来ればたくさん 手不足を解消 製造業などでの人手不足 文化や考え方の違いでトラブル</p> | <p>・実際の状況を理解するために、外国人と日本人の両方から直接話を聞く場を設ける。</p> |
| <p>・問題解決の方法提案</p> | <p>外国人労働者についての問題を解決できるといいな</p> <p>問題を解決するための提案をしよう</p> <p>外国人が日本語を学ぶ機会を増やす 日本人が外国の言葉を感じる 交流できるイベントを作る 外国語の案内板をつくる 困っている人への日本人に伝える 話し合いの場を増やす</p> <p>外国人と日本人が共生する社会を自分たちでつくっていこう</p> | <p>・客観的な事実認識に基づいて考えることができるようにするために、今までに調べた資料を引用して自分の意見を発言させる。</p> |

3 研究の実際

(1) 愛知県といえば何？

まず愛知県といえば何を思い浮かべるかを生徒に書き出させた。多かった意見は「かのにの形」「徳川家康」などだった。一部「車」「トヨタ」などと書いている子もいたが、自動車以外の産業についてはほとんど書かれていなかった。A子も思い浮かべるものに「名古屋城」「かのにの形」と書いていた。

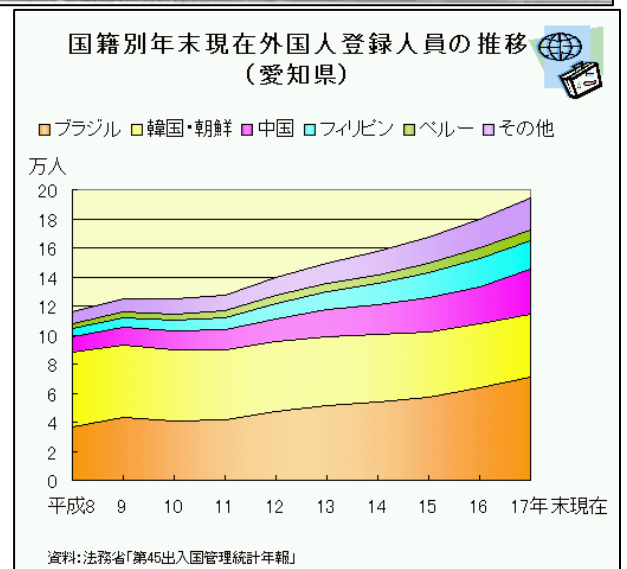
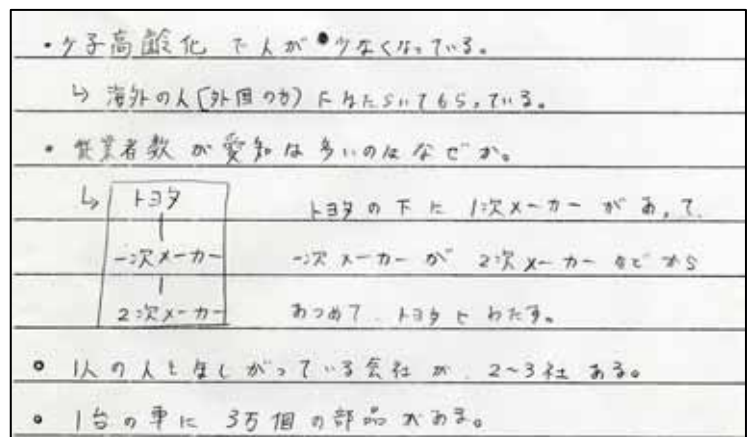
そこで、パソコン室でGreenMapというソフトを使い、愛知県の産業で全国1位のものは何があるかを調べた。農業、水産業などとそれぞれの産業ごとに小項目を選んで順にグラフを見ていく中で「北海道の農業すごい。じゃがいもも牛も1位がたくさんある」などという声があがっていた。そして工業のグラフになると「あ、愛知県が1位！・・・またこれも1位！」と



教室のあちこちで声があがっていった。輸送用機械のあまりの生産額の多さには、愛知県で思い浮かぶものを「車」と書いていた生徒も驚きの声をあげていた。鉄鋼・プラスチック・ゴムなどの工業製品も軒並み1位であることを見つけて、教室は大騒ぎになった。A子はワークシートに、「愛知県は、東京都や大阪府よりも工業がさかんでおどろきました」と書いていた。そして、「東京や大阪のほうが人が多いのに工業の従事者数が愛知のほうが多いのが疑問です」と、工業の従事者数のあまりの多さへの疑問が投げかけられていた。また、多くの生徒から「車はトヨタがあるからわかるけど、プラスチックとかが生産額1位なのはどうしてかよくわからない」などという声もあがった。そこで、次時で工業従事者数やプラスチック製品の生産額の多さの理由を考えることを課題として設定した。

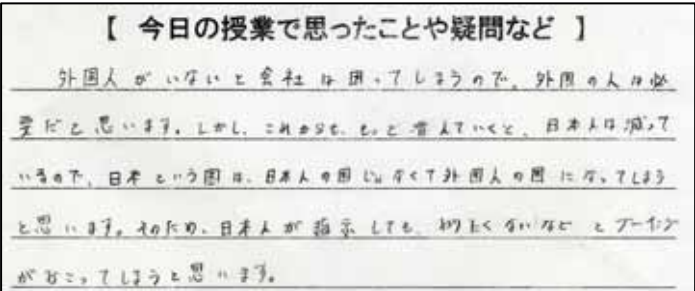
(2) 大喜プラスチックの社長を招いて

この課題を考えさせるため、岡崎市にある大喜プラスチックの井上社長を教室に呼んで、お話を聞かせていただくことにした。大喜プラスチックは、エアダクトなどの自動車部品を製造している会社であり、人手不足から外国人労働者を雇っているため、生徒の疑問の解決につながると考えたからである。生徒たちは井上社長から、自動車の部品は約3万点もあり、その部品を作るためにトヨタの下に1次メーカーがあり、さらに下に2次メーカーがあるという説明を聞いた。また、大喜プラスチックで製造しているトヨタ車のプラスチック部品を実際に見せていただいた。話を聞いたあとのA子のワークシートの「1台の車に3万個の部品がある」「トヨタの下に1次メーカーがあって、1次メーカーが2次メーカーなどからあつめてトヨタにわたす」「一人の人をほしがっている会社が2~3社ある」との記述から、自動車の製造のためには様々な部品をつくるためのたくさんの人手が必要で、求人倍率が高いことを実感したことがわ



かる。また、「少子高齢化で人が少なくなっている。海外の人（外国の方）にはたらいってもらっている。」という記述からは、大喜プラスチックの井上社長の話から外国人労働者が必要な理由を理解したことが見てとれる。

ここで、さらに外国人労働者の増加を実感させるため、愛知県の外国人労働者数の変化のグラフを提示した。すると、日系ブラジル人の増加の急激さに「このままじゃ占領されちゃう」という声まで出始めた。普段は控えめなA子も「なんかこわい」と声をあげ、「日本という国は、日本人の国じゃなくて外国人の国になってしまうと思います。そのため、日本人が指示してもやりたくないなどブーイングがおこってしまうと思います」などと外国人労働者が増加することへの不安を感想に書いていた。その一方で同じワークシートに「外国人がいないと会社は困ってしまうので、外国の人は必要だと思います」とも書いている。この時点でA子が外国人労働者の必要性を理解しながらも、増加することに対して不安があるという葛藤をかかえたことがわかる。



（3）外国人労働者についての実態を調べよう！

大喜プラスチックの見学

この葛藤を受け、「じゃあ、外国人の人が働いているところは本当に今困っているのかな」と生徒への投げかけをした。「外国人が働く現場を実際に見ればわかると思う」という生徒の反応を取り上げ、日系ブラジルの方が実際に働いている大喜プラスチックへの取材をすることにした。大喜プラスチックの工場へ見学に行った生徒たちは、「あ、クラウンって書いてある」など自動車の部品が製造される様子を興味深そうにながめていた。紹介された日系ブラジル人のレジーナさんが、生徒たちの話す日本語を一生懸命に聞き取ろうとしながらインタビューに応じてくれる姿を見て、生徒たちの表情から緊張感が消えていった。



レジーナさんは「日本はお店がいっぱいあって便利」「お給料が高い」など、日本の良いところをあげてくれた。困ったことは「日本語がわからない」こととのことだった。井上社長への日系ブラジル人についてのインタビューでは「日本語がわからないので仕事を説明するのに苦労した」「文字が読めないので男子トイレと女子トイレを間違えた」「家族のために働いているので日本人より一生懸命」などの情報を引き出すことができた。

取材した班は、見学の様子を教室のビデオで流して内容の説明をした。しかし、この時点では1か所の工場だけしか取材しておらず、日系ブラジル人といってもレジーナさん一人の意見だけであった。そこで、外国人労働者の増加にともなう良い点や問題点などの現状をさらに調べるため、大喜プラスチック井上社長の「他にもたくさん日系ブラジル人の働いているところがあるよ。」「市役所や商工会議所とも連携をとっている。」などの言葉をもとにして、班ごとに様々な立場の人を取材する計画を立てた。

六名のバス停でのインタビューから（A子の班）

A子たちの班は、「銀行のところのバス停に朝、日系ブラジル人らしい人たちが並んでいる」という情報をもとにして、朝にバス停で



取材をすることにした。待つこと約 10 分、日系ブラジル人らしい人たちが集まってきた。緊張しながら声をかけると、「日本語わかりません。」と笑顔で答えてくれた。これで緊張がほぐれ、隣の人に質問をすると、たどたどしい日本語で「ブラジルから来ました」「日本はいいところ」「工場に行く」など断片的な情報が得られた。そのうちにバスが到着し、日系ブラジル人の人たちを乗せて出発した。A 子たちはバスの車体を見て「SONY 幸田って書いてあるよ！あの人たち SONY で働いてるんだ。」と叫んでいた。

次の日、A 子たちの班の一人の女の子が駆け寄ってきた。「先生、うちの知り合いの人の上の階に SONY 幸田に勤めている人が住んでるんだって！」知り合いの人はロシオさんというペルー人で日本語もポルトガル語も話せるとのことだった。そこでロシオさんに通訳を頼んで上の階の方を訪ねることになった。上の階の方はテラジ・マルリさんという日系ブラジル人だった。マルリさんは、インタビューに快く応じてくれ、ビデオカメラを指差して「私はそういう物を工場で作っている」と教えてくれた。そして、インターネットでブラジルにある日本風の街の様子を見せてくれながら、「今年は日本人が最初にブラジルへ移り住んで 100 周年なんだよ」と教えてくれた。「見た目でしか判断できないので、おもちを石けんだと思って買ってきて体を洗ってしまった」という話など、直接会わないと聞けない実際の体験談を聞くことができた。



A 子のインタビュー後のレポートには、マルリさんが日本に来て、「日本はブラジルと違う文化でそれが楽しい」「収入が得られる」ことなどを良かったと思っていることや、「日本語がわからない」「買い物でも何が売っているのか読めない」と困っていることなどがびっしりと書かれていた。

A 子のレポートの「日系ブラジル人の人は日本人を好きじゃない」と書いていました。でも、インタビューしたマルリさんは日本の文化や和食をととても好んでいてうれしかったです」という部分からは、インタビューによって「日系ブラジル人は日本人を好きではない」という自分の固定観念をくずしたことがうかがえる。また、「外国の人が多くなっても、日本の文化に興味をもってもらえたら嬉しいので、外国との交流は必要だと思いました」と、外国人との交流の必要性を感じるようになった。

当初、外国人への不安感がぬぐえなかった A 子だったが、この日系ブラジル人へのインタビューによって考えに変化がおきていることがわかる。

| | |
|--------------------------------|--|
| ○名前 テラジ マルリ さん | ・ソニーではたいてい困ること |
| ○務めている所 ソニー幸田工場 | ・ブラジルの人最初から多い |
| ・日本に来て良いところ | ・教えてくれる人が居る。 |
| ・新しい文化がある → 楽しい | ・仕事は難しくない。 |
| ・物価の安いところがある → ブラジルの物に全くと高くなる。 | ⇒ 困ることがあまり無い。 |
| ・安定した職業がある → 収入も安定する。 | ～その他～ |
| ・日本に来て困る ところ | ・今年が日本人が初めてブラジルへ移り住んで 100 周年記念の年。ブラジルのアリエルターゴという日本の町でお祭りがある。 |
| ・日本語がわからない。 | 日本語がわからないので見た目では判断…石けんもおもち、油もサリン |
| ・読み、書き → 病院、買い物 | とまちがえる人が多いそうです。 |
| 何が安いのか、手紙 など | |

【今日の授業で思ったことや疑問など】

日系ブラジル人の人は、あんまり日本人を好きじゃないと思っていました。でも、今日インタビューしたマルリさんは日本の文化や和食をととても好んでいて嬉しかったです。

これから、仕事の関係などで外国の人が日本に来ることがさらに増えるので、外国の人が多くなっても、日本の文化に興味をもってもらえたら嬉しいので、外国との交流は必要だと思いました。

その他の班の主な取材活動（ は良い点 ×は困った点 ・はその他の情報）

【アンデン株式会社の工場（日系ブラジル人）】

- もうかる。治安がいい。
- × ブラジルよりも時間に厳しい。
- × 特に漢字が読めない。病院でもどうしていいかわからなかった。
- ・ 自動車関係の電子部品製造。700人のうち、約半分が日系ブラジル人。
- ・ 日系ブラジル人専門の派遣会社を通してきている。
- ・ 六名にある OICC というところで言葉を少しずつ覚えた。



【水谷ヒロシ・マルコスさん（日系ブラジル人）】

- 会社のチームでの仕事に慣れると楽しい。
- × 少しでもわからない言葉があると仕事ができなくなる。
- × 品質検査が厳しくて、検査でだめだといわれる。
- ・ 自動車の塗装。350人中200人が日系ブラジル人。
- ・ 日系ブラジル人のために仕事を紹介する本がある。
- ・ 1年間～3年間日本で仕事をするとブラジルで家を建てることができる。



【アイシン精機西尾ダイカスト工場（日本人）】

- 個人の負担を減らせる。ほとんどのことを一生懸命にやってくれる。
- × 言葉が通じないから2か国語で書類をつくらないといけない。
- × 言葉が通じないと不安がたまっていく。
- ・ 1300人中500人が日系ブラジル人。



【県営電美ヶ丘住宅に住んでいる方（日系ブラジル人・日本人）】

- 日本人×朝、たいこをたたいていてうるさいことがあった。
- 日本人×ゴミを出す日などルールを守らなかつたり協力してくれない。
- ブラジル人 生活がしやすい。
- ブラジル人×やっぱり日本語が難しい。



【ハローワーク（日本人）】

- × 言葉が通じないこと
- ・ 外国の人が来て良いことはハローワークとしてはあまりない。
- ・ 基本的には日本語が話せない人にはここではあまり紹介する職業はない。
- ・ 通訳を月・水の週2回来てもらっているがいないときには出直してもらおう。



【商工会議所（日本人）】

- 会社や工場が人手不足を補うことができる。
- × 子供が日本語を話せるようになっても親が話せず親子が話せない人もいる。
- × 言葉の違いで学校に行きにくくなる。
- × 就職先が見つからず、お金がなくなって犯罪に走る人も一部だがいる。



【市役所・文化国際課（日本人）】

- 踊りやパーベキューなどにぎやかなことが好きで一緒に楽しめる。
- × 言葉が通じないので、文化の違いなどを教えることができない。
- ・ 岡崎市にいたる日系ブラジル人が一番多く働いているのは SONY 幸田。
- ・ 六名の学区に OICC という外国人との交流を行うところがある。



（４）各班が調べてきたことをまとめよう

各班が調べてきたことをレポートにまとめさせ、冊子形式にして生徒たちに配布した。そして日系ブラジル人・日本人それぞれの立場からの意見を発言させ、板書でまとめていった。意見をまとめる際にはできるだけ実感がわくようにするために、インタビューの映像や生徒のもってきた資料を TV に映すなどの方法をとった。



C1：マルリさんは「日本語が読めなくてお店に行ったときにもちと石けんを間違えて買ってきて、もちで体を洗っちゃった」って言った。

T：へー。それに関係したことで何か聞いた班ある？

C2：アンデンの人が漢字が特にわからないって言った。病院に行ってもどこに行けばいいかわからないそうです。

C3：僕たちはハローワークに取材をしたんですけど、「日本語がわからない人は仕事がない」って・・・通訳の人がいなかったら帰って出直してもらったりするんだって聞きました。

C4：いなかったら出直すの？ なんかかわいそう・・・

C5：電美ヶ丘住宅の日本人のおじさんが「ブラジル人はゴミ捨てとか協力してくれない」って言ったけど、インタビュー

- ーしたらブラジル人のほうが協力してくれたから、たぶん言葉がわからないから話し合いができてないんだと思う。
- C6：山内くんのお父さんも「言葉がわからないとお互いに不安とかがたまる」って・・・「不安・不満・負担で3F」とか言っていました。
- C7：うちの班の・・・ 商工会議所で聞いたんだけど、日本の言葉がわからなくて学校も行けなくて、言葉がわからなくなってフラフラしちゃう人もいます。そういう人がお金を稼げなくて、中には犯罪をしてしまう人もいますって聞きました。
- C8：なんか言葉がわからんといかんことばっかじゃん。

授業記録の中でC8が「言葉がわからんといかんことばっかじゃん」と話しているように、生徒たちはこの話し合いを通して、言葉の壁が多くの問題点につながっていることを実感した。自分たちの調べた一面からしか理解できていなかった言葉の問題が、この話し合いで様々な立場からの情報を聞いたことにより、「仕事」「家族」「生活」「近所づきあい」など想像以上に多くの問題に結びついていることに気づくことができた。



(5) 問題を解決するには

このように様々な立場から見た問題点を出し合ったあと、問題を解決するために今後どうすればいいかを話し合うことにした。まず、グループごとで、板書とレポート冊子をもとにして話し合いをさせ、意見をワークシートに記入させた。A子はこのときのワークシートに「イメージの絵をかく(石けん あわ)」など、マルリさんが取材で日本語がわからずもちを石けんと間違えて買ってしまったと言っていたことをもとに問題解決の方法を書いていた。



次に学級全体で問題解決の方法について意見を出させ、話し合いをさせた。次の資料は、解決の方法を話し合った際の授業記録の一部である。

- C1：県営住宅の人が、「ブラジルの人が協力してくれない」と言っていたけど、インタビューには日本人よりブラジル人のほうが協力してくれた。話せばわかると思う。
- C2：言葉が通じないから外国の人も日本語を覚えてくれればいい。日本人も言葉が通じないときはどうにか方法を考えてコミュニケーションをとる。
- T：どうにか方法・・・どうやったらいいかな？ どういう方法があるかな？
- C3：ボランティアで教えてくれる人を探す。お金とかで困っている人が多いので無料で教えてあげればいい。
- C4：通訳をする人が少ないのでもっと多くすればいい。
- C5：アンデンは土曜日と日曜日は休みなので、土曜日と日曜日に社員の人が日本語教室を開いて1回500円で覚えてもらう。1ヶ月に2・3回・・・日系ブラジル人の人はバーベキューが好きなので、バーベキュー大会を開いて漢字の問題に答えたら肉が食べられて、答えられなかったら野菜しか食べられないようにする。日本人も同じようにする。
- T：日本人も同じなの？
- C5：そうしないと日本人もブラジルの言葉を覚えられないから。
- T：有料なのはなんで？
- C5：バーベキューの肉のお金。
- C：(笑い)

この授業記録のように、生徒たちは前時で話し合った問題点を解決しようと自分なりの提案を出すことができた。C5の生徒は、自分が調べてきた「アンデンの日系ブラジル人が漢字が読めないと言っていた」ことと、市役所に行った班から聞いた「日系ブラジル人はバーベキューなどにぎやかに楽しむことが好き」であるということを組み合わせて発言をすることができている。意見を交わしあう中で、今までに気づけなかった面に気づき、自分の考えに取り入れることができたことがうかがえる。

(6) 学習を振り返って

単元の最後に今までのワークシートを見て、自分自身の考えの変化を振り返らせた。当初は「外国人労働者は日本人の迷惑となる人だと思っていた」と考えていたA子だったが、実際に外国人にインタビューをし、話し合いの中で他の班の生徒から「他の国の文化を知ることができる」などという長所を聞く中で、「文化の違いはとても困るものだと思っていたけれど、逆に他の文化を知ることができ、一緒に楽しむことができると知って、外国人労働者の人とかと交流してみたいと思いました。」と思うようになっていた。ここからは、この単元の学習を通してA子の考えが大きく変わったことがわかる。

外国人労働者は、日本人と文化が違う。日本人の迷惑となる人だと思っていた。

他の班の「ブラジル人」について聞いたこと。
「他の国の文化を知ることが出来る。」
・「ブラジル人はおどろきやパーベキューなどに好きなことがあること」が好きなため、日本人も一緒に楽しむことができる。

文化の違いは、とても困るものだと思っていたけれど、逆に、他の文化を知ることができ、仲が良ければ一緒に楽しむことができること知って、外国人労働者の人とかと交流してみたいと思いました。

4 研究の成果と課題

外国人労働者の方や雇っている日本人の方などに直接話を聞く機会をもうけることにより、生徒たちは自分の考えを新たにし、交流をすすめたいという課題意識をもち話し合いに取り組むことができた。日系ブラジル人や日本人経営者など多様な立場からの調査をもとにして、話し合いをしたことにより、特に言葉の問題について、様々な面から理解し、関連性を見出すことができた。今までのワークシートを読み返させ、自分の考えの変化を見つめなおす振り返りの場を設定したことにより、自分自身の考え方の成長を実感させ、今後の行動を考えるきっかけにすることができた。

プラスチック工場の井上社長の話を聞き、外国人労働者の増加のグラフを見せたときに、A子は外国人労働者の必要性を感じながらも「こわい」と声をあげ、「外国人の国になってしまう」と、外国人増加への不安をレポートに書いた。しかし、実際にインタビューをしてみると日系ブラジル人の方たちの気さくさに驚き、「交流が必要だと思った」とワークシートに書くようになった。このように、直接話を聞くことにより、A子の考えに外国人労働者の否定から共感へと大きな変化が生まれた。これらのことから、手だて は有効であったと考える。

生徒たちは自分たち以外の班が調べてきたことにも強い興味を示していた。そして話し合いの中で「言葉」の問題が思った以上に様々な問題にかかわっていることに気づくことができた。また、A子は当初、日系ブラジル人の「文化」という言葉を漠然と使っていたが、この話し合いにより、他の班の調べ学習をもとにして「おどろきやパーベキューなどにぎやかなこと」と書くようになり、具体的なイメージをもつことができるようになった。これらのことから、手だて は有効であったと考える。

この実践を通して、A子の考えは大きく変化した。日系ブラジル人に対して「日本人の迷惑となる人」と思っていた状態から、インタビューをすることにより「交流が必要」へと変化し、他の班からブラジル人の文化を聞くことにより、さらに積極的な「交流してみたい」へと意識が変わっていった。自分のワークシートを振り返ることにより、直接の対話をし多面的な見方をすることが、相互理解に結びついていったということに、A子自身が気づくことができた。A子はこの単元の後、班の生徒とともに学区にあるブラジルの食料品店へ行き、ポンデケーキというブラジルのパンなどを買って食べた。そして、「前はこわい店だと思っていたけど、全然そんなことなく日本と同じ感じだった。パンもチーズ味ですごくおいしかった」と話してくれた。これらのことから、手だて は有効であったと考える。